



やってみましょう!!

～GDDDな関わり・言葉かけ～



○よくできているね。
○その調子!!
○少しずつわかってきたね。
○頑張っているね!



×なんで、できないの?
×ちゃんとしてね!
×わかってないね。
×はやくしてよ!...など

- 認めよう
- 理解しよう
- 安心する言葉をかけよう
- 具体的な解決方法を伝えよう



ほくにもできた!!

自分の良い点に気づかせよう

困っている時に助けを求め力を育てよう



どうしたらいいの…?

子どもが戸惑ったり、自信を失くしたり、不安に陥ったりすることがあります。周りの大人の「欠点を指摘する一言」で自信を失くしてしまいます。

子どもにはそれぞれ個性があります。周りの大人が子ども達のいいところを「ほめて」「励まして」「具体的に伝えて」、小さな成功を何回も経験させてあげることで、本人に意欲と自信をつけさせてあげることが大切です。



前ページに示した、お子様のいくつかの行動や悩みの原因としては、本人の努力だけでは解決できない困難さが深く関係しています。いくつか当てはまる場合には、特別な支援や配慮が必要な場合があります。



お子様の様子に気づき、悩まれること自体が、子どもたちが安心して日常生活を送れるための大事な一歩となります。

まずは学校へご相談ください。相談から支援までの流れを紹介します。

相談窓口

- 学級担任
- 特別支援教育コーディネーター
- 学年主任や養護教諭

本人や保護者、学校との就学に関する面談、専門機関の巡回相談等による生徒の実態の把握。(専門機関による発達相談、発達検査)

専門機関の助言を受けて、校内支援委員会で支援内容や方法の検討。

*生徒からの相談、教師が子どもの様子を観察しての気づきから、保護者への相談後、支援がスタートする場合があります。

生徒の指導方針などについて、教職員間で共通理解、学校全体で対応。

必要に応じて「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成。

通常の学級

担任をはじめ教科担当、学習・生活支援員が、特別な支援を必要としている子どもたちが安心して学べるよう配慮しながら、授業や生活のサポートを行います。

特別支援学級の参観・体験

御船町就学支援委員会において就学先の決定

はばたき学級ではどんな学習をしているの?



ちょこっと紹介

交流・共同学習

特別支援学校進学を目指して、交流学級で授業を受けたり、支援学級で個別学習を行ったりしています。また、「作業学習」において、手作りした商品の販売活動を実施したり、土作りから始めた野菜の栽培で、過去最高記録!!「10kg」の桜島大根を収穫したりしました。

特別支援学級

生徒の特性等に配慮しながら指導・支援を行い、少人数で学習します。御船中学校の支援学級は、「知的障がい学級」「自閉症・情緒障がい学級」「肢体不自由児学級」「難聴学級」「弱視学級」の5学級あります。名称は「はばたき学級」「かがやき学級」です。

子どもの特性や卒業後の進路希望に応じて、通常の学級で授業を受ける生徒、支援学級で教科の個別学習を行う生徒、特別支援学校の教育課程に沿った学習を行う生徒と個別に対応しています。



支援・配慮の実例

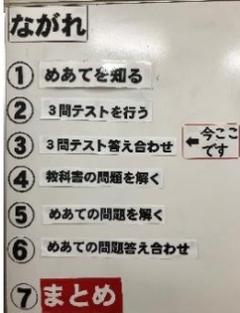


子どもが安心して学習し、行動できる環境を整えています。

学習環境における配慮

学習場面における支援

- 一時間の授業の流れや作業手順を事前に示す。
- 情報刺激の少ない環境作り。生徒が学習内容・連絡事項（黒板の文字や資料）を注視できるようにする。



- 時間の感覚を視覚や聴覚で提示。時間が減っていくのが見えるタイマーを利用する。



- 読む行に紙やじょうぎをあてて、傍線を引く。
- 書く文字の大きさを整え、まっすぐ書けるように学習シートにあらかじめ罫線やマスを書く。
- 文章の内容を理解する際、「いつ、どこ、誰、何、どうした」等で文を捉える学習を行う。
- 各教科の文章問題に記述されている、「ちがい」「理由」「12文字（以内）で書く（抜き出す）」「選ぶ」等のキーワードに気づかせる。
- 板書は、チョークの色を適切に使いつけて書いたり、学習内容は違っても、書く順番をパターン化したりする。
- 学習シートを作成し、書く量を軽減する。
- 説明の際、写真や図、表などの視覚的なものを活用する。
- 「きちんとしなさい。」「しっかりしなさい。」ではなく、「〇〇を3回します。」など、具体的に指示を出す。
- 授業をいくつかの展開に分け（説明を聞く、書く、話し合う、発表する等）メリハリをつける。
- 座席を工夫し（窓際から離す・前側にする）、授業に集中し、個別支援を受けやすいようにする。

行動面、対人関係における支援

支援員・専門機関における支援

- 急な変更がある場合は、できるだけ早く知らせる。1日の流れは朝の会等で確実に伝える。
- 「うまくいかなかった場面」を本人と一緒に振り返り、どのように行動すれば良かったのかを考える。
- 基本的な会話の仕方や、友だちの誘い方などのコミュニケーションスキルの学習を行う。
- 考える際に、話すだけではなく図示したり文章に表したりして、相手との関係が見えるようにする。
- 本人の得意なことをいかして、周囲に認められるような機会をつくる。
- 急な変更 pani ックにならずに、うまく対応できたときはほめる。
- 「〇〇はだめ。」「〇〇しない。」よりも「〇〇します。」等の肯定的な指示を増やす。

- **特別支援教育支援員**：通常の学級及び特別支援学級に在籍する児童・生徒の学習活動への支援や、肢体不自由の児童・生徒の学校生活に必要な介助を行います。
- **スクールカウンセラー**：心理の専門職でいじめや不登校など、児童生徒及び保護者の悩みや相談に応じ、教員に指導・助言も行います。
- **スクールソーシャルワーカー**：教育の分野と、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する人で、問題を抱えた児童生徒に対し、置かれた環境への働きかけや、関係機関とのネットワークの構築など、多様な支援方法を用いて課題解決への対応を図っていきます。

そして
ゴールは？

「働くこと」
～全ての人に大切なこと～
子どもを「働ける人」としてみましよう



子どもたちの得意なことや よいところに目を向けましょう。



どの子どもにも個性があります。必ず「よさ」や「得意な面」があります。一人ひとりの得意なことや特性をしっかりと見て、うまくできたときは一緒に喜びましょう。そうすることで自分のよさに気づき、得意な面をのびしていく意欲がわいてきます。自信や意欲が高まるように、背中をそっと押すような支援や声かけをこれからも一緒に行っていきましょう。



障害のあるなしや、障害の程度にかかわらず、全ての人にとって「働くこと」「職業に就くこと」は、国民の義務であり、基本的な権利として大切なことです。

「働かせるのはかわいそう」と何もさせてもらえないことは、自分自身を認めてもらっていないことと同じなのです。

「働くこと」は経済的な利点以上に、よりよく生きるために必要です。

「この子に就職は無理」と諦めないでください。

「この子は将来、地域で働き、地域で暮らす大人になる」という視点で、「できる仕事」「できるようになる支援」をみんなで考えましょう。



ご存じですか？ 街の中のバリアフリー 「心のバリアフリー」

「バリア」とは壁のことであり、ここでは多様な人がいることを考慮しない社会によって作り出されたものをさします。多様な人のことを考えると「バリア」が見えてきます。

障害のある人が社会の中で直面しているバリアには、大きく分けて4つあります。

① 物理的なバリア

路上の放置自転車、狭い通路、ホームと電車の隙間や段差、建物までの段差など。

例：エレベーターのボタンが高い位置にあると、車いすを使っている人はボタンが押せません。

② 制度的なバリア

制度などによって、障害のある人が能力以前の段階で機会の均等を奪われているバリアのこと。

例：盲導犬に対する理解が不十分なため、盲導犬を連れての入店を断られることがあります。

③ 文化・情報面のバリア

情報の伝え方が不十分で、必要な情報が平等に得られないバリアのこと。

例：タッチパネル式のみでの操作盤、音声のみでのアナウンス。点字・手話通訳のない講演会。車内アナウンスだけでお知らせしても、聴覚障害の人には情報が伝わりません。

④ 意識上バリア

周囲からの心ない言葉、偏見や差別、無関心など、障害のある人を受け入れられないバリアのこと。

例：障害がある人に対する無理解、かわいそうな存在だと決めつけたりすることなど。点字ブロックがあることに無関心で、その上に立ったり物を置いたりすることで、バリアをつくってしまいます。

もう一度陸上トラックへ



夢!輝き講演会にて



令和三年度 夢!輝き講演会
演題 「夢への挑戦」
講師 パラアスリート 中尾有沙様

日本一になった三段跳び競技。オリンピック出場を目標に練習を重ねていた中でのけがで、車いすの生活に。持ち前の明るさで今を受け入れ、パラアスリートとして世界を目指し、指導者を目指す中尾さん。「心のバリアフリー」の大切さを、優しくあたたかく、真っ直ぐなまなざしで中学生に語っていただきました。

街中のバリアフリーには、障害のある人が使いやすいようにした様々な工夫があります

- 低い位置にボタンがあり、車いすを方向転換せずに乗降できる鏡つきのエレベーター
- 転落防止の駅のホームドア
- 点字ブロック
- ピクトグラム など



大切なのは「心のバリアフリー」。困っている人に気づくこと、声をかけることから始まります

「〇〇しましょうか？」

バリアがあって困っている人に気づいたときに、声をかけてみましょう。困っていただけけれど、何に困っているのかわからない場合もあります。そのような場合には、「何かお困りでしょうか?」「私ができることはありますか?」とたずねてみましょう。



お子様のより良い 成長に向けての 相談機関

御船町役場 福祉課
児童福祉係
096-282-1346
(平日 8:30~17:15)

御船町役場
保健センター
096-282-1602
(平日 8:30~7:15)

御船町教育委員会
学校教育課
096-282-1700
(平日 8:30~17:15)

上益城地域療育センター
(みふねデコボコ会)
096-282-1700
(平日 9:00~17:00)

県御船保健所
096-282-0016
(平日 8:30~17:15)

子ども 110 番
(県福祉総合相談所)
096-382-1110
(平日 9:00~16:00)

県立教育センター
教育相談所 (山鹿市)
0968-44-6655
(平日 9:00~17:00)

すこやかダイヤル
(山鹿市)
0968-44-7445
(平日 9:00~17:00)

県中央児童相談所
096-381-4451
(平日 8:30~17:15)

子ども人権 110 番
(熊本地方法務局内)
0120-007-110
(平日 8:30~17:15)

県子ども総合療育センター
(宇城市)
0964-32-1143
(平日 8:30~17:15)

すこやか子育て電話相談
096-354-8822
(平日 17:00~21:00
± 13:00~17:00)

県女性総合センター
(県福祉総合相談所内)
096-381-4340
(月~± 9:00
~20:00)

県発達障害者支援センター
(大津町三気の里)
096-293-8189
(平日 9:00~17:00)

肥後っ子サポートセンター
(県警察本部少年課)
0120-02-4976
(平日 8:30~17:15)

県人権センター (県庁)
096-384-5822
(平日 9:00~16:00)





通心

～心が通う～

御船町立御船中学校
特別支援教育通信
2022.3.3 発行



未来へ飛ばたいていく

御船中学校では、特別な教育的支援を必要とする子どもが、多様な学びの場で教育を受けることができるように、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる力を伸ばし、生活や学習上の困難を改善または克服するために適切な指導及び必要な支援を行うための体制、基盤作りに取り組んでいます。

一番大切なことは、子ども一人一人が輝き、楽しい学校生活を送ること、社会生活における自立をすることであり、そのためにはお互いを認め合い、助け合うことが必要です。

御船中学校特別支援教育啓発「通心」は、すべての保護者の皆様に、特別支援教育への理解を深めていただき、学校と家庭と関係機関が連携して、お子様の成長とともに歩んでいくことを願い、作成しました。



お子様の成長のこと…。一人で悩まれていませんか？



子どもが授業について行けるかしら？
友だちと仲良くできるかしら？

子育てや教育のこと
で、相談やアドバイスを
もらえる機関は身近にある
のかな？

周りの子どもと比べると、自分の子どもは少しちがうように感じるけれど大丈夫かな・・・？

学校で、自分の子どもが支援員のサポートを受けることはできるのかな？



具体的には…？



学習に関すること

- 計算はできるけど漢字や文章題が苦手。
- 文字の並びや大きさが揃わない。
- 文章を読むのが苦手。
- 黒板のノートを書き取るのに時間がかかる。
- 筆算の桁が崩れやすく、計算間違いが多い。
- 音読で行をとばしてしまうなど、読み間違いがよくある。

行動に関すること

- 落ち着きがなく、じっとしてられない。
- 気持ちがすぐ不安定になってしまう。
- 急な予定の変更に柔軟に対応できない。
- 話を最後まで聞かずに行動することがよくある。
- 一つのことに関心をもつと、他のことが考えられない。

人との関わりに関すること

- 人前で話すことが苦手。
- 場に応じた行動をとれないときがある。
- 友だちとよくトラブルになる。
- 人の意見を聞かない。冗談やユーモアを言葉通りに受けとめてしまう。よく話をするが、会話が一方的でとびやすい。
- 友だちを求めるが、関係をうまく築くことができない。
- 自分の思ったことを、場を意識せずに言ってしまう。



お子様に関する悩み＝子どもが困っていること

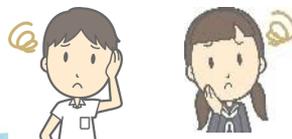


前の情報と後の情報が
入り乱れて混乱する…

臨機応変な対応が
できない…

とっさの判断を
せかされると困る…

なんとかしたいのに…



がんばっているのに…

周りの雑音と会話の音が
同じに聞こえる…

返答が質問の趣旨に
そっていない時がある…